

我ら信濃川・大河津分水を愛する！

NPO信濃川大河津資料館友の会
法人信濃川大河津資料館友の会

Vol.35 平成26年6月発行

私のおすすめスポット

会員 小田切俊雄（燕市在住）

「私のおすすめスポット」は信濃川本流と大河津分水路との分岐点付近、右岸からの分水路下流方面の眺望スポットである。弥彦、国上を仰ぎ、技術の粋を集めた美なる可動堰が控え、そして悠然として雄大な流れを一望できるところである。

「大ひろ野 流るる川の信濃川 ゆたかなるかも 美しきかも」と詠んだのは上杉謙信を描いた「天と地と」の著者、海音寺潮五郎である。彼がこのスポットに佇んで詠んだ歌ではないかと思われるほどに、まさにこの眺望にふさわしい歌であると思わずにいられないのである。

彼は新潟に来た時に信濃川の素晴らしさに感動したことを「流域紀行」（1976年 朝日新聞社発行）の中で歌と共に述べている。大河津分水路を訪ねており分水路工事の歴史についても詳しく述べている。また燕、三条の歴史のみならず産業史にも知悉している。彼の故郷である鹿児島、九州には大河はない。信濃川の雄大さ、美しさに惹かれ憧憬を持っていたのではないかと思われるのである。因みに「流域紀行」紹介の碑が長岡市信濃（信濃川右岸、長生橋と大手大橋の間）の堤防上にある。

天候に恵まれた日、長岡まで信濃川堤防をサイクリングすることがある。大河津資料館から右岸堤防を南下、与板橋を渡る。そして黒川放水路水門を通り左岸堤防へ、与板を経て長岡市街に入る。蔵王橋、長岡大橋そして、北越戦争後の長岡復興のツボル、三島億二郎の銅像の真ん前を走り抜け、大手大橋、折り返し地点のアーチの美しい長生橋まで走る。信濃川を満喫できる堤防は春秋快適なサイクリングロードである。

復路は往路と同じコースを逆に北上する。真野代付近に来るとようやく可動堰が鮮明になり、信濃川と国上、弥彦、多宝、角田の山並みと相まって美しい景観となってくる。

サイクリングも終盤、流汗淋漓（りゅうかんりんり）の末、眼前に分水路の眺望が迫る「私のおすすめスポット」に到る頃、膝が笑ってくるのである。



大賑わいの「お茶を楽しむ会」

4月20日（日）11:00～ 参加者：450名

青い空、満開の桜に恵まれた今年のおいらん道中。恒例のお茶を楽しむ会は、開始時刻の前から大勢のお客さんで賑わいました。中には燕市長さんの姿も。ゆったりと一服されるみなさんの裏側で、スタッフは目の回る忙しさ。息の合った連携プレーで笑顔のおもてなしは、さすがでした。



大河津分水抜本的改修に思う

平成 26 年度大河津分水拡幅工事の調査事業がいよいよ始まるという。これを聞いて喜んだ人はたくさんいるに違いない。大河津資料館 1 階奥に貼ってある大河津分水路の全景航空写真を見て思った人は多いであろう「自然の川は上流から下流へ行くほど川幅が広がる。ところが分水路では下流に行くほど川幅が狭くなる。これで良いのだろうか」と。

実は大河津分水路にはもう一つ不自然なところがある。それは分水路の第二床固で水面が急激に落ち込んでいることである。第二床固といえは分水路の中でもかなり下流、もう日本海は目の前である。どうしてこんな下流で急激な段落ちがあるのであろうか。自然の川ならば、上流側では急な流れであり、下流に行くほど流れは穏やかになるはずである。分水路の上流部分、可動堰を過ぎたあたりでは、なるほど川は自然に穏やかに流れている。それが第二床固で急激な段差があるのはなぜであろうか。このような二つの不自然さはどうしてできたのか。分水路の形を決めた主な工事、明治末から大正にかけての第二期工事は間違っていたのか。どうなのであろうか。

今では信濃川本流、新潟市の中心部でもう一つの分水路、関屋分水が 1972 年に作られている。この関屋分水路は大河津分水路とは異なり、分水してから海に至るまで、元来が市街地であった地域を、一定の川幅で流れている。それに対し、大河津分水路では山を切り開いて作られている。しかもその工事の間、3 度も右岸の山が滑ってきて、折角掘った分水路を埋め尽くしたのである。今第二床固から上流にかけての分水路右岸の山へ登って行くと、たくさんの土中壁、水抜き井戸が施工されている。つまり第二期工事当時の技術、経済力では現在の分水路の平面形は精一杯の努力の結果であったのである。そしてその後のたゆまぬ維持管理の努力により、立派に 80 年以上その役を果たしてきたのである。

一方分水路の川底の地形はどうであろうか。分水地点から新潟市の信濃川河口までは 60 km はある。分水地点での水面の標高を 10m とすれば、河口まで平均勾配 1/6000 で流れ下ることとなる。もしも同じ勾配で分水路に水を流そうとすれば、分水路の延長 10 km を経ても水は海に達しないのだ。つまりどこかで急傾斜を作って流さねばならないのだ。賢明な読者ならば「それでは分水路も 60 km 掘って海に至るようにすればよい」と思うかもしれない。それはある意味正しい。つまり長岡市中心部に近い辺りから分水路を掘り、今の分水路につなげるとすれば、分水路延長 50 km、長岡市分水地点から信濃川河口まで 100 km となり、分水路全長の平均勾配と長岡市から信濃川河口までの平均勾配との差はよほど縮まるのである。

しかしこの案も、動かすべき莫大な土の量を考えれば現実的でないことにすぐ気が付く。やはり、先人の為した業績は正に偉業であったのである。そして、大河津分水路が、その先人達に続く、技術者達のたゆまぬ努力によって、ここまで立派に守られてきたことを深く思うのである。

第 10 回 (最終回) の「俳句を楽しむ会」を開催しました

6月7日(土)13:00～15:00 参加者：31名

梅雨入り宣言直後で、天気が心配されましたが、何とか降らずに持ちこたえてくれました。10 年を区切りに今回が最後の「俳句を楽しむ会」。和やかに、大盛会のうちに幕を閉じました。毎年ご指導いただいた田村紅子先生、担当された松井ヒロさん、ありがとうございました。

十年の月日涼しく重ねけり 田村 紅子
長堤にはや逃げ水の頭れり 濱田 達郎
いっばいのばら一匹のてんと虫 松井 広宇



皆様ありがとうございました。

総会特別講演「信濃川水系河川整備計画の中の大河津分水路」開催

5月17日(土)、総会に引き続き、信濃川河川事務所の福渡所長から今年1月に策定された「信濃川水系河川整備計画」に関して講演いただきました。この計画の目玉は何と言っても「大河津分水路の抜本改修」。聴講する会員の皆さんにとっても大いに気になるところ。4月20日に開催された「大河津分水改修事業調査着手式」における佐藤信秋参議院議員の「調査着手から13年で完成させてほしい」という発言も踏まえ、「スピード感をもって臨みたい」と話されました。今後の抜本改修に期待が高まります。



福渡信濃川河川事務所長による講演

平成 26 年度 年次総会報告

5月17日(土)大河津出張所に於いて、平成26年度年次総会が開催されました。5月10日現在の正会員、個人162名、団体31社、計193名・社に対し、出席52名・社、委任状94名・社と、定足数(正会員の過半数)に達していることを確認した後、横山正二会員を議長に選出して、議事が進められました。主な議題は次の通りです。

- ①平成25年度事業報告、決算報告(承認)
- ②平成26年度事業計画案、予算案(承認)
- ③その他(報告)

大河津資料館管理補助業務受託費が倍増したことから、平成26年度予算は昨年度の708万円から1,371万円と大幅に増加しました。会員及び地域のみならずとも充実した一年にしたいと思います。事業への参加、協力をよろしくお願いいたします。

平成26年度役員(継続)

理事長 早川典生
 副理事長 小林 清
 副理事長 濱田達郎
 理事 畠山卓也
 解良節子
 池田富春
 山田司羅雄
 白倉與志司
 田中隆夫
 丸山晃平
 笠柳シズ
 若月夏子
 横山正二
 山田 薫
 樋口 勲
 橋本誠一
 目黒信雄
 小黒憲雄
 氏田公基
 監 事 吉田 茂
 小林恒男

平成 26 年度事業計画

区分	名称	日時	会場
講演会 講座	総会講演会	5/17(土)	大河津出張所
	大河津分水講演会 2014	12/7(土)	三条市
	お茶を楽しむ会	4/20(日)	大河津資料館
	桜・おいらん企画展	4/1~4/30	大河津資料館
	俳句を楽しむ会	6/7(土)	大河津資料館
	河川文化講演会(7.13水害を語る)	6/21(土)	大河津資料館
	県内バスツアー(中越地震10年)	7/5(土)	山古志・川口
	県外バスツアー(最上川)	9月	山形県
	水辺の観察会	8/9(土)	体験水路
	信濃川教養講座	10月	大河津資料館
	サケまつり	10月	大河津資料館
	河川文化講演会②	3月	大河津資料館
会報	たより第35~38号	春,夏,秋,冬	
年次報告	あゆみ	3月	
ガイド	ガイド研修	4、6、8月	大河津資料館
	ガイド実践	開館日	大河津資料館
奉仕活動	花壇整備	5、11月	大河津資料館
	庭木剪定	7/12(土)11月	大河津資料館
	クリーン作戦	7/12(土)	大河津資料館
受託業務	大河津資料館管理補助委託	開館日	大河津資料館

(開催日は総会後に決定したものを含みます)

事業部体制(継続)

部長 濱田達郎
 副部長 畠山卓也・樋口 勲
 部員 解良節子・山田 薫
 池田富春・笠柳シズ
 若月夏子・目黒信雄

支援部体制(継続)

部長 白倉與志司
 副部長 横山正二
 部員 山田司羅雄・田中隆夫
 小黒憲雄・橋本誠一

広報部体制(継続)

部長 早川典生
 副部長 丸山晃平・五十嵐晃
 部員 氏田公基・斎藤 麗



イベント案内

河川文化講演会 開催

「7.13水害ミニシンポジウム」

7.13新潟・福島豪雨から10年が経ちます。水害被害に遭われた松井光子さん(中之島)、安達吉信さん(栃尾)、救助活動に奮闘された吉川敏之さん(三条)をゲストにお迎えし、体験談をお聞きしながら、改めてあの水害について考えてみましょう。(事業部)

日時：平成26年6月21日(土)13:30~16:00

場所：大河津資料館 2F 多目的ホール

※参加希望者は事務局までお申し込みください。

信濃川クリーン作戦にお集まり下さい

昨年加盟した「信濃川をきれいにする会」活動の一環として、大河津資料館周辺のクリーン作戦を行います。来訪者に気持ちよく過ごしていただけるよう、大勢の参加をお願いします。(支援部)

日時：平成26年7月12日(土)9:00~10:00

集合：大河津資料館

道具等：トンク、手袋、レジ袋等を持参下さい。

※参加希望者は事務局までご連絡ください。

庭木剪定に力を貸して下さい

信濃川クリーン作戦の後、資料館周辺の庭木剪定を行います。剪定クズを集めていただける方大歓迎です。手持ちの道具を持参して下さい。(支援部)

日時：平成26年7月12日(土)10:00~12:00

場所：大河津資料館敷地内

慰労会：終了後、ふれあいセンターにて慰労の昼食会を開催します。

※参加希望者は事務局までご連絡ください。

第2回ガイド研修を行います！

大河津資料館管理補助業務ガイド研修を行います。今回は分水消防署の指導による避難・消火訓練を併せて実施します。業務担当者の参加をお願いします。業務担当者以外の参加も歓迎です。(事務局)

日時：平成26年6月21日(土)9:00~12:00

場所：大河津資料館 2F 多目的ホール

※参加希望者は事務局までお申し込みください。

特別企画「青山さん・宮本さんと語る会」開催

青山多恵さん、宮本信さんを分水にお招きして、お二人と語る会を開催します。どんなお話が飛び出すか。友の会ならではの特別企画。大いに語り合しましょう。多数の参加をお待ちしています。(事務局)
日時：平成 26 年 6 月 28 日(土) 14:00~16:00
場所：大河津資料館 2F 多目的ホール

※参加希望者は事務局までお申し込みください。

可動堰事業竣工式開催：6 月 29 日(日)10 時~現地

県内バスツアー 開催

「中越地震から 10 年メモリアルツアー」

10.23 中越地震から 10 年。各地のメモリアル施設を巡りつつ、震災への理解を深めます。(事業部)
日時：平成 26 年 7 月 5 日(土) 9:00~17:00
集合：大川津ふれあいセンター→川口さすな館→震央メモリアルパーク→やまこし復興交流館おらたる(昼食)→木籠メモリアルパーク→妙見メモリアルパーク→おぢや震災ミュージアムそなえ館→道の駅パティオ新潟→大川津
※申込み締切 6 月 29 日(定員 20 名)・会費 2,000 円



団体会員
ご紹介

我ら大河津分水応援隊！

大河津資料館友の会に思うこと

グリーン産業株式会社

当社は造園工事、斜面防災工事、指定管理業務を主に営業している会社であります。現在は新潟市に本社を構えておりますが、創業時は燕市にあり、分水地区でも緑化工事を多く施工させていただいています。現在も信濃川堤防工事での緑化や燕市交通公園、吉田ふれあい広場を指定管理者制度で委託運営をさせていただいており、燕市とは縁深い会社です。

近年の異常気象に伴い、集中豪雨での河川の増水、土砂災害の頻度が多くなり、改めて防災施設の充実はもちろん、防災意識の向上が非常に重要であり、大河津分水の役割・重要性や先人たちの思いや歴史を多くの人々に知ってもらう為、大河津資料館が核となる施設としてのさらなる発展を期待しております。

又、開催している講演会が、歴史や治水の専門の方々の方々の具体的で分かりやすい講演であるため、非常に入り込みやすく勉強になります。各イベントも多彩で、事務局の方々には企画から実施までのご努力に感謝申し上げます。当社も会員の一員として微力ながら貢献できればと思っております。

大河津分水路事業との関わり

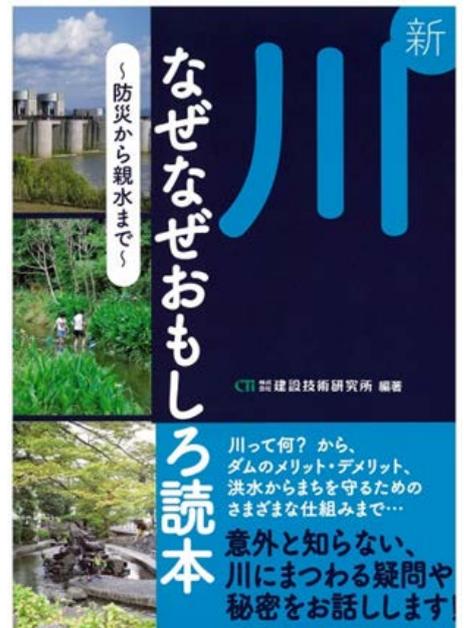
株式会社建設技術研究所

信濃川大河津資料館友の会の皆さま初めまして、団体会員である当社を紹介させていただきます。株式会社建設技術研究所は、昭和 20(1945)年に創立された財団法人建設技術研究所から独立して昭和 38(1963)年 4 月に設立され、平成 25(2013)年に 50 周年を迎えました。財団創立から数えますと 70 年の歴史を持つ“日本で最初の建設コンサルタント集団”です。

当社は伝統の上に立って、皆さまをとりまく様々な社会インフラの整備に向けて、調査、計画、設計、管理、事業マシナリなどを行い、安全安心の確保に貢献するとともに、産業や社会の発展と人々の豊かな暮らしを支えています。

特に国土保全の観点から当社は、大河津分水路事業と古くから関わってきました。古くには財団法人時代の昭和 37(1962)年に、旧建設省土木研究所からの委託で大河津可動堰模型実験・構造検討を担当しました。その後、昭和 40 年代からは、信濃川水系の治水計画に関わり、現在の信濃川水系河川整備計画の策定にも関わってきました。一方では、大河津分水路の魚道の検討、大河津可動堰に関連した水理模型実験や環境モニタリング調査などに関わってきました。現在でも大河津分水路改修に向けた関連業務に携わっております。

当社の河川・砂防および海岸・海洋部門は、国内市場トップを維持しています。その技術者が、仕事から離れ、日ごろ扱っている川づくりの考え方を入門者向けにわかりやすく説明した「川なぜなぜおもしろ読本」を出版しています。その表紙には、大河津分水洗堰の写真が掲載され、本文中にも地域のシンボルとして、「大河津分水路」が紹介されています。(北陸支社大川)



＜編集後記＞ 北陸地方は、平年より 7 日、昨年より 13 日早く、6 月 5 日に梅雨入り。直前の暑さにはまいりました。春秋なしのような近頃の気候は、巡る四季を楽しんできた私たちには、まさに異常気象。せめて、災害につながる大雨だけは御免こうむりたいもの◇新年度事業が滑り出しました。中越地震、新潟福島豪雨から 10 年。節目のイベントも計画されています。参加をお待ちしています◇友の会フェイスブックが更新されています。下記の URL からご覧ください。

＜事務局連絡先＞

〒959-0123 燕市大川津 1215-7

TEL 090-2673-6596(事務局長)、090-1996-1256(事務局)、FAX 0256-97-3682

e-mail ohkouzu_tomonokai@yahoo.co.jp <https://www.facebook.com/ohkouzuTOMO/>